



人間 富岡貴林著
一生 發明道中記
初編 上

N39 四冊
東京神田猿轡町亭目拾黄地
三河屋幸三郎

口 9
1516
1



富岡貴林編輯

人間

發明

道中

記

初編

五高

廣重画



發明道中記序

夫發明者。事物を委しく。明く其天地自

然の功用。或備く。細く。察し。以て

道を行ふなり。又天地萬物。各あるハ

所。是れ志。又離れ。べし。なる

所。ハ道。ハ。い。ふ。え。あ。つ。道中

得。多。魏。多。赫。多。今。此。答。明。道中

趣。者。先。此。理。或。辨。く。旅行。を。い。幼。者

児女輩。これより後、一々、生るゝ文明
 開化盛大繁昌の域に及ぶ。その徳澤を
 蒙るゝ。身を五家を興せ給。泰中成均
 角と。其西月み叙を

明治七年戊午六月中旬

東京墨水須崎社

新蕉水獄

註

凡例

一 書中、（一）関東方言に、（二）地口の多し
 又、（三）獨り、（四）文句、（五）比喩、（六）何り
 一 此書、（一）情、（二）書、（三）文、（四）江、（五）求、（六）志、（七）一、（八）同、（九）銭、（十）作、（十一）え、（十二）来、（十三）う、（十四）文、（十五）の、（十六）車、（十七）通、（十八）ある、（十九）益、（二十）あり、（二十一）中、（二十二）種、（二十三）小、（二十四）の、（二十五）補、（二十六）ひ、（二十七）あり、（二十八）と、（二十九）せ、（三十）氏、（三十一）事、（三十二）の、（三十三）勸、（三十四）懲、（三十五）を、（三十六）答、（三十七）え、（三十八）た、（三十九）れ、（四十）ど、（四十一）小、（四十二）の、（四十三）補、（四十四）ひ、（四十五）あり、（四十六）と、（四十七）せ、（四十八）氏、（四十九）看、（五十）官、（五十一）を、（五十二）下、（五十三）り、（五十四）持、（五十五）て、（五十六）る、（五十七）や、（五十八）の、（五十九）く、（六十）僥、（六十一）倖、（六十二）に、（六十三）作、（六十四）者、（六十五）の、（六十六）織、（六十七）部、（六十八）緒、（六十九）し、（七十）て、（七十一）外、（七十二）に、（七十三）給、（七十四）ふ、（七十五）と、（七十六）あ、（七十七）る、（七十八）の、（七十九）道、（八十）

附言

古くより善惡道中記と云ふ冊子あり。花権亭の著述
 にして。當時せり行まるといふ。是實曆六丙子年か
 春乃板也。巻と小冊と合せ見るに。終りて後市せり。
 今明治七甲戌年まで。一百十有九年の往昔あり。其後
 天明寛政のころより。大通獨案内と歎く。花栗
 山人柿發高の著述あり。是を彼乃花権亭の作
 なり。わうひる。繪圖中冊と合併せり。
 やうに。せー銭作なり。あまも今よりハ八十五二年

九十年はのま既往りなるなり。其のち又
 山東虎京傳の銭作に。悟道獨案内と云ふあり。あ
 一筆庵の獨案内。惡及中記といふとあり。近年
 傳の表表。面年代記と云ふ。写本を見たり。唐何
 人の作。成り代。是等々。花権亭の著述
 に。わうひる。わうひる。妙案を著せり。先哲乃著述
 何と云ふ。己のいふ。花権亭の著述。花権亭の著述
 土と云ふ。時代。花栗山人の著述。その名。わうひる
 の。山東虎京傳。銭作。花権亭の著述。花権亭の著述

悟道獨素内やせり色たり。この以て家より原通ひも。
 四ツ五ツの能く三枚と。猪牙者やさむのる蒲室をく。
 痛く行ひる水性り。うつらやその人懐か
 穿より。一筆庵より天保時代り。たづねの何やを
 行へるものなり。さて近年より一室のみ。あな中記
 ち。毎名なれども業ものらしく。すて其れ時代を
 嘉永の頃。余ほど学力も存にありのきぬくつ
 きい路と。ゴロと突出に筆のあや。幾作の徒りハ
 何るべし。げえゆ。志のハ、何れも、星うつらりハ

変り。依行當時の開化り。と抑へる。方今乃馬車
 人力車も。夢りもあつた。況く娼妓藝妓。解放
 り。自由の權をば新し。玉るるがたや。故り
 今將に新向をうり。茲より、禿髪を採るる
 なりなり。

新蕉庵主人再誌



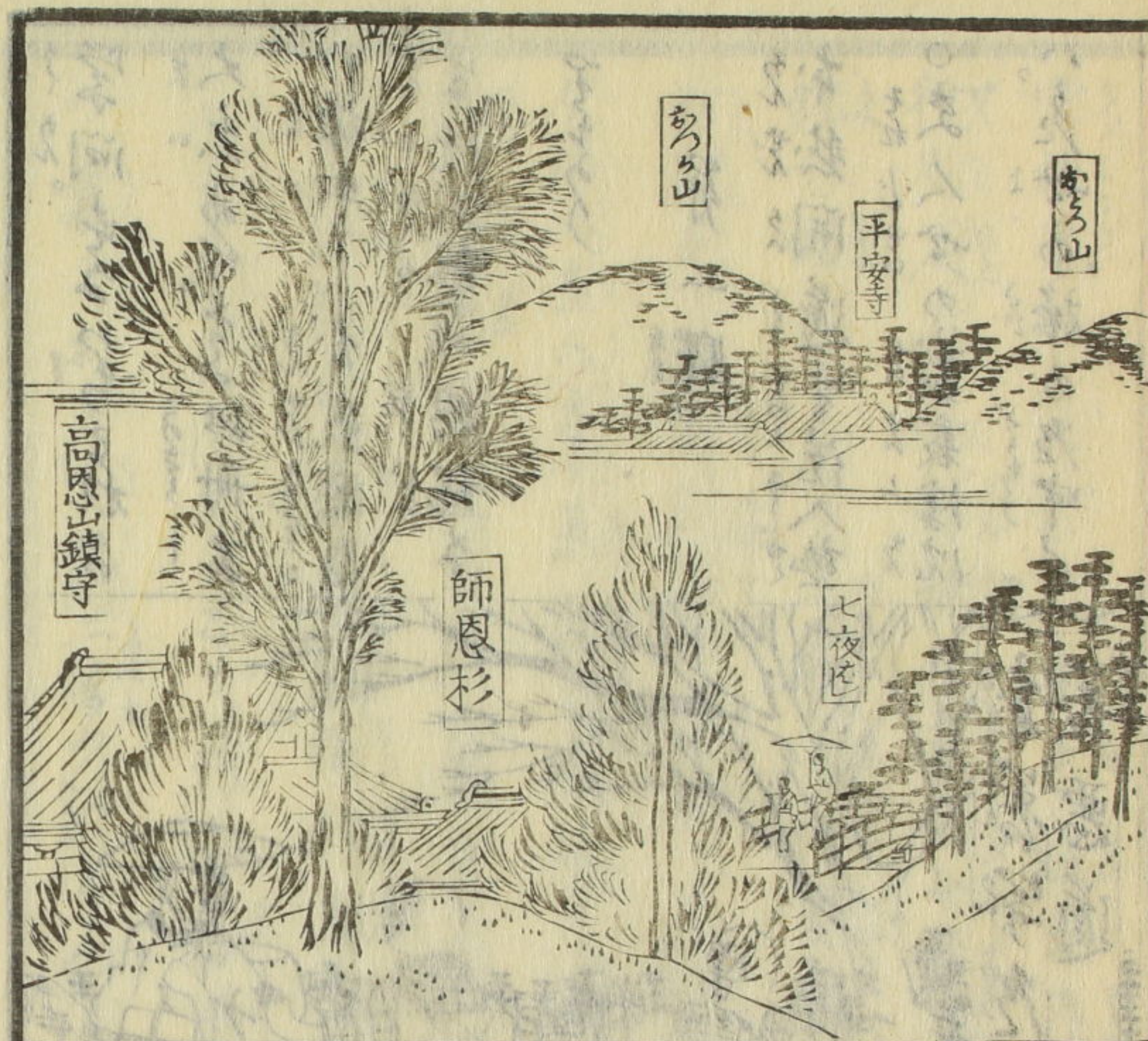


富岡貴林編

發明道中記初編上之卷

勅稱東京と云る歌を旭りむら声や那のみやとぞり。
 と云ふ秀句何ぞ。文の深化日毎に新とありたる整思の
 御代に羽を伸を鶴の丸。ある地球の東方に輝きわたり
 日の本と云ふ草原乃中國に生え遠なる蒼生。才智
 發明道中乃。その厚に紀を々あり。書法をあたる餘
 路の教種。波の軍船乃音の能多。後一場りも賢愚
 邪正は空合なり。新うの道は演義と浪花乃何とぞ
 道づまりにあり。老少男女の異別あり。一羽の紫枯得

尖と盛衰浮沈の名所と四跡。人生僅々五十里の定相場ら
 山坂を覚えずくろ七十の啼る古来稀なり。箭よりも
 速き光陰の隙ゆく。乃本馬輕風。往紙停むれども止る
 莫あらず。時日と云ふ小結開とれる。花鳥の河津川水も。流る
 ゆくものハ春を接ぎ。妙上下の隔なく。若以て云ふ結
 精鼻より。老の宿を造る。風を柔ゆ。艱難辛苦電信
 機の速き成りひて。一星花乃出世と彩ひ。鉄道の疾き
 を見て。孫也。鞍の物もむねと觀て。順れの報謝や。山
 中ノ木葉。泊る立のいさほ。きに晴は枝葉離る。以



産土のついでに同より
 へ。おんのうちに
 云ふ。たのしみは寂有りぬ
 産。これよりして天降
 神の恵よりよむるく。
 父母の神乃育により。
 日とく縁。月を積む。
 年とあすち。一里とく
 立場を越つ。群と

歩行のついでに○遠ぶる。うくむ何ゆめと。子をわめ

月と月につる老を忘る。

高恩山鎮守の社産神大神。美臨炳然く。生涯を守護

せうふ新神なり。七夜の橋を越つ。人のみち成ゆき。

参詣をく。○師恩の杉あり。直立にく。空を凌ぐの

大本。ちうの不見仰て山のついでに。幾針の子枝を生育

して。繁茂せり。此樹の新よりよりて。毎日ち源風成ゆ

て。清澄のありひを昭して。讀書の功を積み。冬へ空風

せいのふ便りとゆき。一室より籠る。義解の勉強を為

何り。地内に○かぎの苑といふ樹あり。大切り育て雲ふ
事ゆゑる森とて勿論何れも風を厭ひ。年中花さく
樹あり。名物。あま酒。○白雪糕。○孫右衛門。○山椒魚。あまの
此より後より岐道あり。愛瀬村より。慈母村へ。これ合
の宿に。魚さき地なり。それより○我孫子。のほろを。
○足んなく。天玉の祠あり。このほろより。須弥乃。四天を。
はつり。あまあり。常我。の山祠より。右に
より土人乃。称。何れ。何れ。○子。牧の周路。○慈愛谷。此所
新の勢。此。吸。物。名物。あり。○新。あま。の。難。所。



右の方に持子の殿あ
る。たりのうに七面を
何り。○松村山。慈愛の
森。古。伝。子。の。名。所。
松。村。山。又。伝。田。の。杜。と
いふ。尋ね。来。て。ん。と
いふ。名。所。なり。此。と。ろ
より。を。あ。ち。生。徒。入。塾
の。時。む。あ。り。



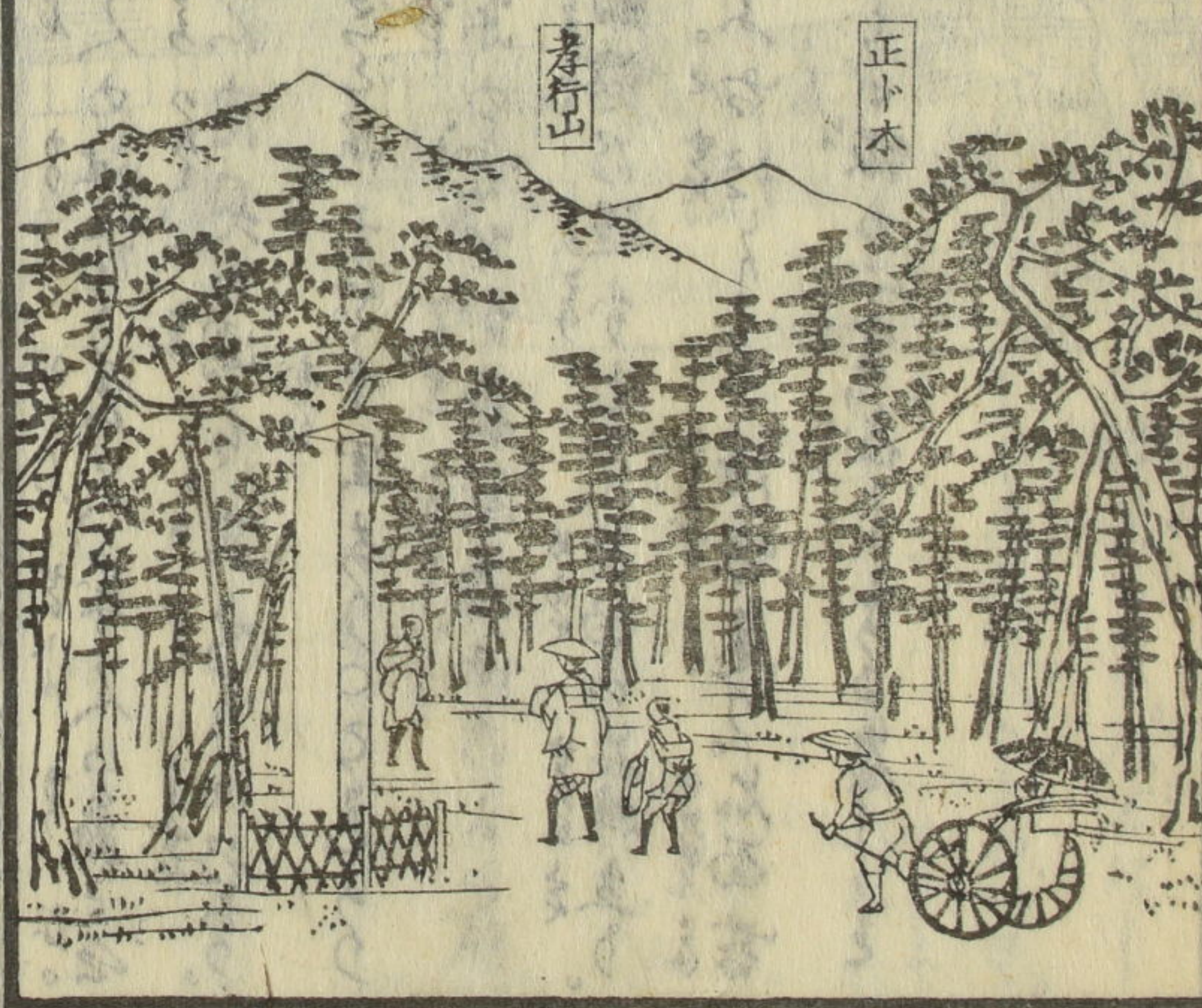
○津土まゐ。ハオに
て小堂に入るといふ。
産色むくよりいふ。
八里のさあ丁場あり。
○光陰の派し場あり。
道一の急流あり。
井水水勢矢のわし。
一庭とわが。あつた
りておとやあらず

○志一の立場。茶屋の物人に見えぬ。あつた。
高野山産林の社あり。此の所を十里あり。○こまより
開道岐つり。つり。此の所を十里あり。○こまより
魚佐湯道といふ。此の所を勸懲の道あり。○こまより
又むく。揚米が。いふ。こまより。○こまより
越え。文字。鷹城。せり。あつた。○こまより
いふ。こまより。

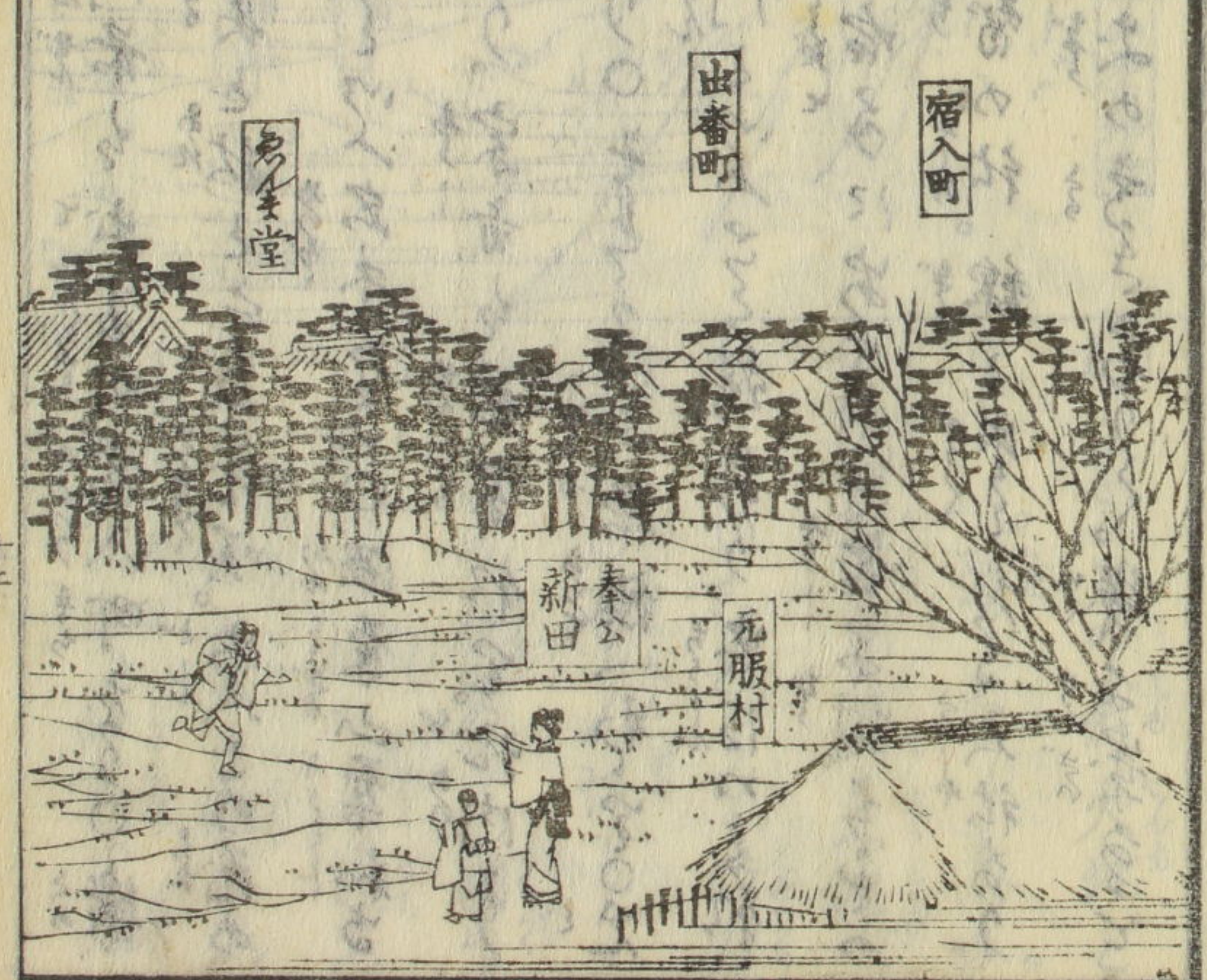
第二群

發所道中記上

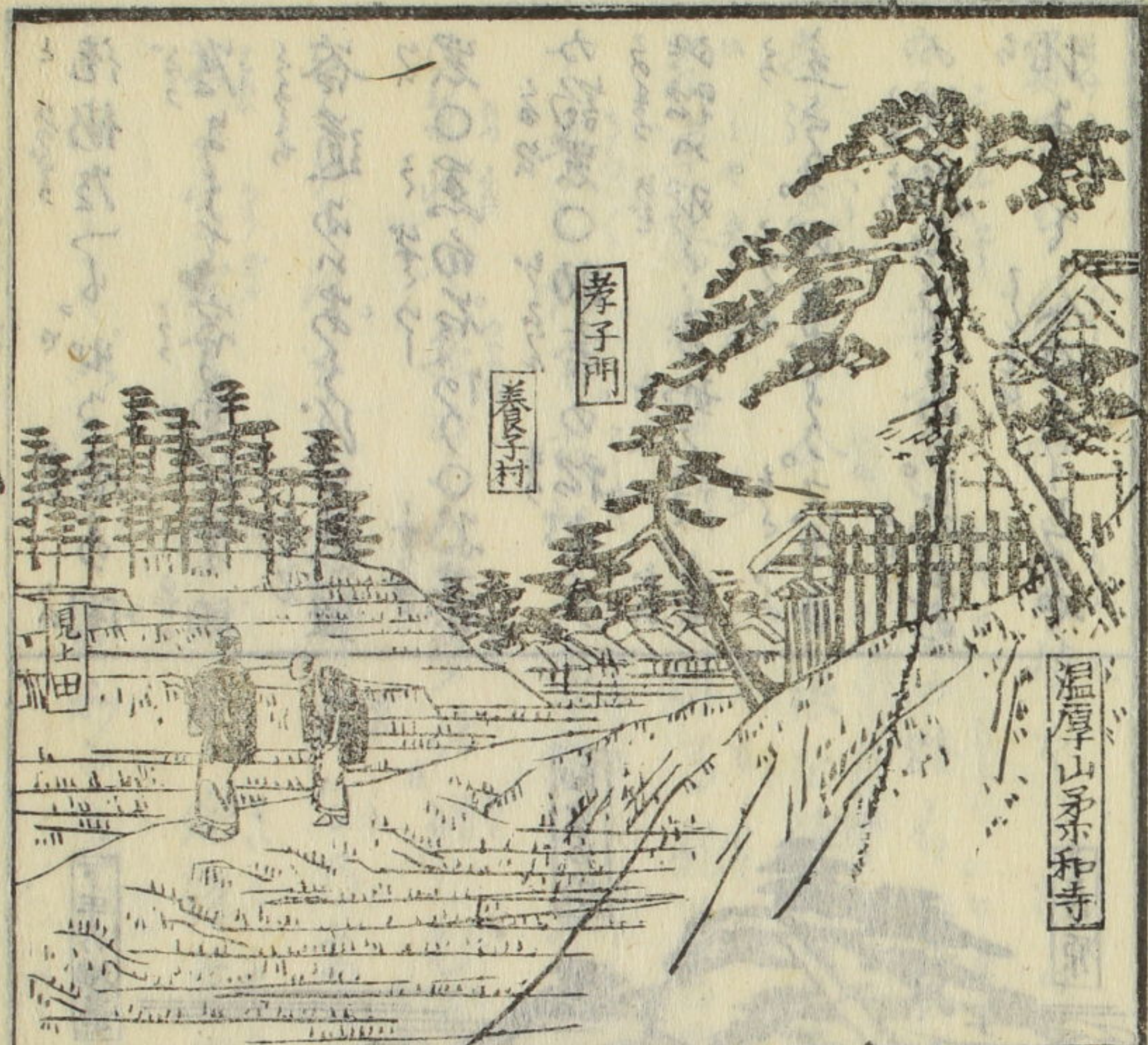
本番用道奉行高○山ト
 本林の側並本あり。この
 木は直り生えあり。一本
 山とのみまゝのほる事。若開
 けと生くもの。内みても
 以と稀なり。子の人難
 所ありとあると。いふと
 平地より道中むろく



本地富饒にして。道より
 落るるを拾ひて。白目盗
 けりてある。さうくと行
 る。中用道にそ。凡そ死
 何より我れが死。今死
 にはある。自然の道なり
 ○奉公新田○元服村あり
 ず。此へん子僧。丁種あり
 ○寄村の半里針。南の風に

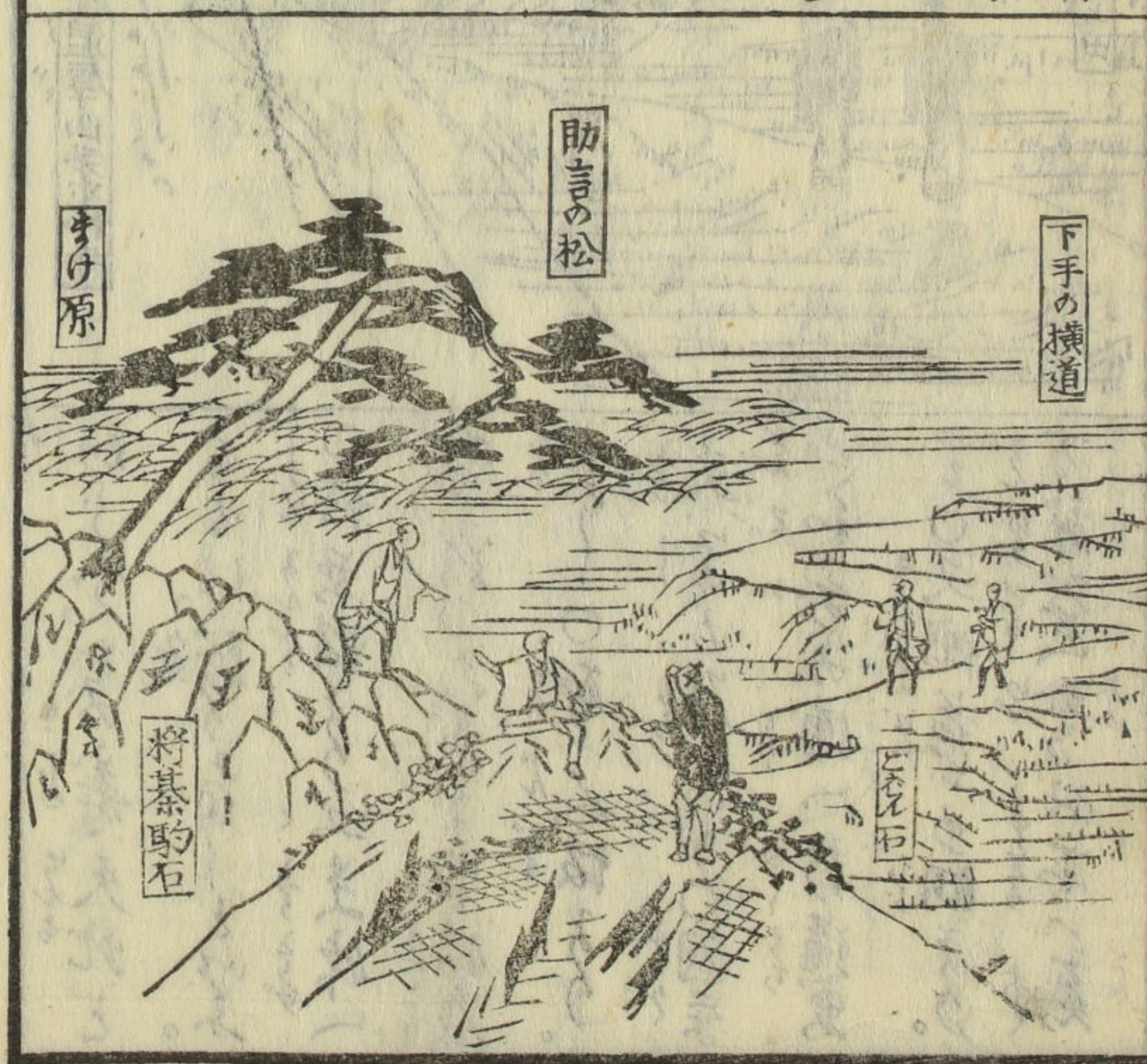


森羅萬物皆魔界なり。門前も出家所。宿入町なり。○樂
木と云ふ樹あり。其と秋とと花咲。土人の花の
咲。猪の待つ。待たねと云ふ木なり。○温厚山系和
い。山々素朴の寺あり。宗旨は曹洞宗なり。地内
人毫ふ木あり。大木あり。○そとより山路へあり。○兄
上田を越へて。○孝子の門と云ふところあり。忠臣の
此ところより。出るなり。右にあり。○孝子村。その
に兄弟あり。○五常山。礼智の社。魏の寺なり。大社あり。
御神木仁義と云ふ。数十丈の高さあり。幾ふ家あり。

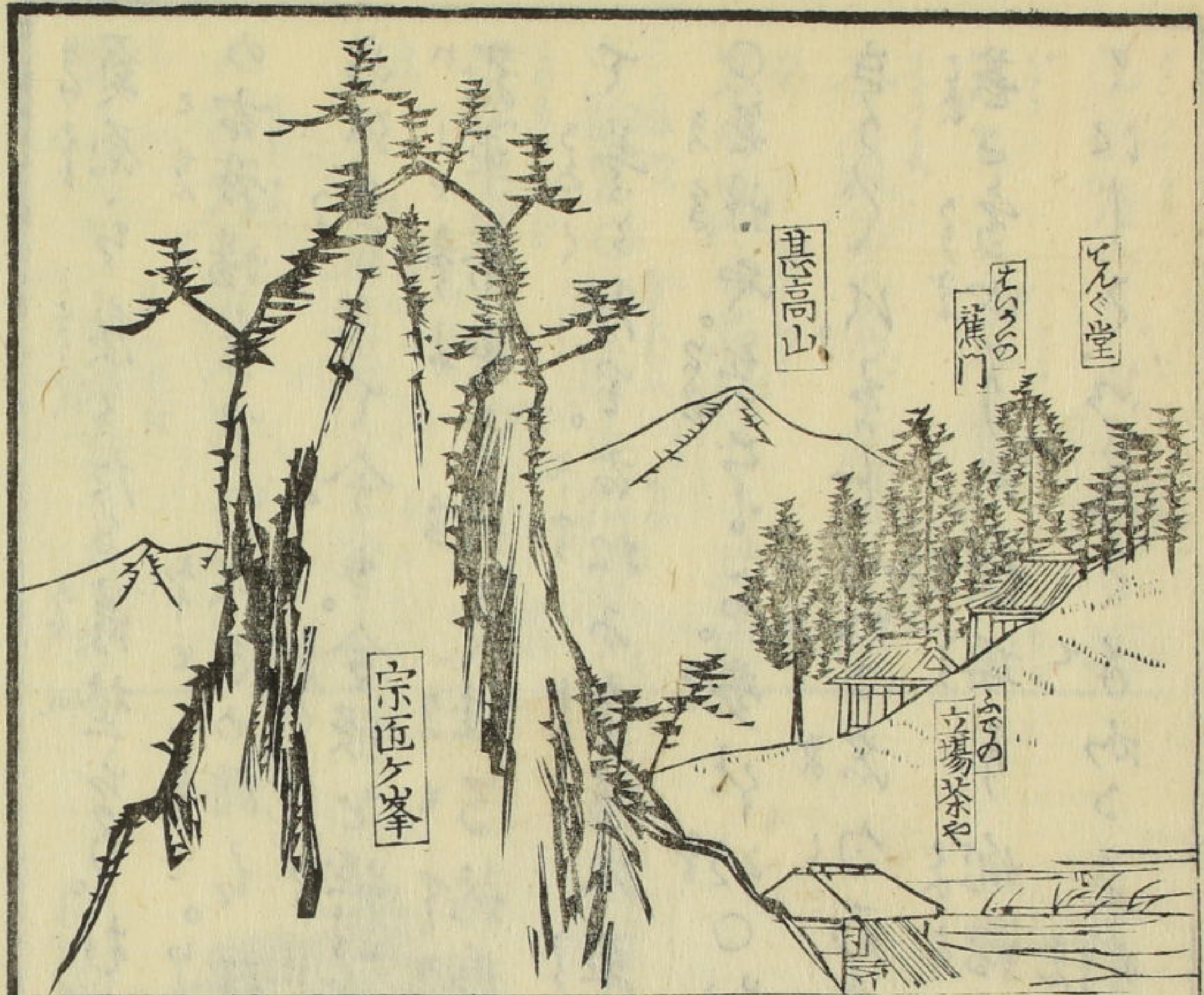


知す。その壽天此と
るに。隠るなり。○
○堪忍坂より上りて
わが。○其はよる
多し。○聖人坂あり。
其の家のあり。○國
山和の浦。乃道
○又。○
万能。○

とくろく
 徳御殿も。此る合の閑
 たり。容易にそと
 谷道あり。あふ。〇慕盤
 〇黑白石。〇将棋
 〇助言の松あり。
 〇如くに。生
 〇又。又。又
 〇不毛の
 〇人跡あり。と。や



負^ひ辱^はら^はく^く 廣^{ひろ}く^く たる^{たる} 落^お墊^{ちやう}なり。む^むの^のー。中^{ちゆう}將^{しやう}碁^ぎ。小^{せう}象^{しやう}銭^{せん}ホ
 の古^こ戦^{せん}場^{ばう}なり。○大^{だい}手^ての跡^{あと}を。礎^{いさ}のみ^{のみ}沸^わり^りく。寂^{じやく}寞^{まう}なり。
 出^でた^たを^をり^りて今^{いま}も。金^{きん}銀^{ぎん}を^を垢^{あう}に^にを^をる^るや^や何^{なん}の^の事^{こと}に^に○
 花^{はな}車^{くるま}番^{ばん}車^{くるま}を^を朽^くく^く。桂^{けい}馬^ばの^の骨^{こつ}を^を。風^{ふう}を^をに^にき^きう^うは^は色^{しき}
 て^て無^むく^くたる^{たる}。古^こ松^{そう}の^の葉^は啼^なひ^ひ草^{そう}裡^りり^り。瓶^{びん}鬼^き道^{どう}を^をつ^つき^きう^うな^な
 ○復^{また}叶^はや^や。無^なく^くも^もの^の。夢^{ゆめ}を^を知^しぬ^ぬ○む^むを^をん^んや^や何^{なん}の^の鬼^{おに}の^のた^たの^の
 き^きう^うぐ^ぐに^に。な^なを^をい^いひ^ひの^の名^なを^を乃^のある^{ある}を^を後^ごなり。○高^{かう}慢^{まん}山^{さん}ハ
 甚^{こゝろ}ど^ど高^{かう}山^{さん}り^りて。後^ご頃^{こう}り^り。能^{よく}踏^ふ意^い門^{もん}なり。え^えハ^ハ冠^{かん}木^き門^{もん}の^の如^{ごと}
 く^くに^にー^ーく^く。何^{なん}の^のく^く子^こか^かる^るき^き門^{もん}り^りて。質^{しやく}朴^{ぱく}な^な軍^{ぐん}ー^ーの^の。



近年災患あり。如何
 る。高住乃門欽とくこの
 泉。奥の院ハ天狗堂なり。
 奴木点一木等の。林木多
 一〇宗道ヶ峯 高住とく
 三子大〇筆の立坊茶屋
 あり。此道返草多し。入
 花開く。何月幾日ノ切と
 多木戸あり〇折くこの

宗道ヶ峯 天狗堂の由来を尋ねる。むろ十七文字
 の智恵ふり。俗談平話を其後修に。作念しつゝ我
 後世ニ文が智恵もなき。心猿ども。此色をよめらび。さ
 然く修りもせぬ。高住一登り。遂りこの天狗堂なり。
 入。根木山猿の狡猾なる。毛羽に集り。さや火害
 多。為しぬむ。たゞ自己が筆談の。癡漢を怖し。威勢
 と張り。深谷へ去りて。深む。漸あり。〇若人台志の人
 ち。立よりぬ。模道あり。〇すゝあ道より。多。茶蹴鞠活
 花。徳富めたり。〇風推搗。〇多藤山模り。花や。〇連

欽石○和奈の浦より○玄奈の隅○言葉の八もあつたり。
 わりねど。そとより一道路一出る○祭の石牌○初まじり演
 ○假名づつひの樹。名木りて。子ル奈。後より○傍
 續の神社○ハ雲々。出雲ハ重植。以てく。蔵重なりて。
 美奈緒々たる。神社あり○梓木の神社○ふ部の神社ハ
 末社あり○宮位官中より。徳行仁茂安教此のこハ
 事り参詣しあふこ終なり。下妙の宮も。余方あり
 くら。さんみし難し。後々浪を勘あつて。参詣
 せり○此神社の。東西南水。名所四所あり。多く投

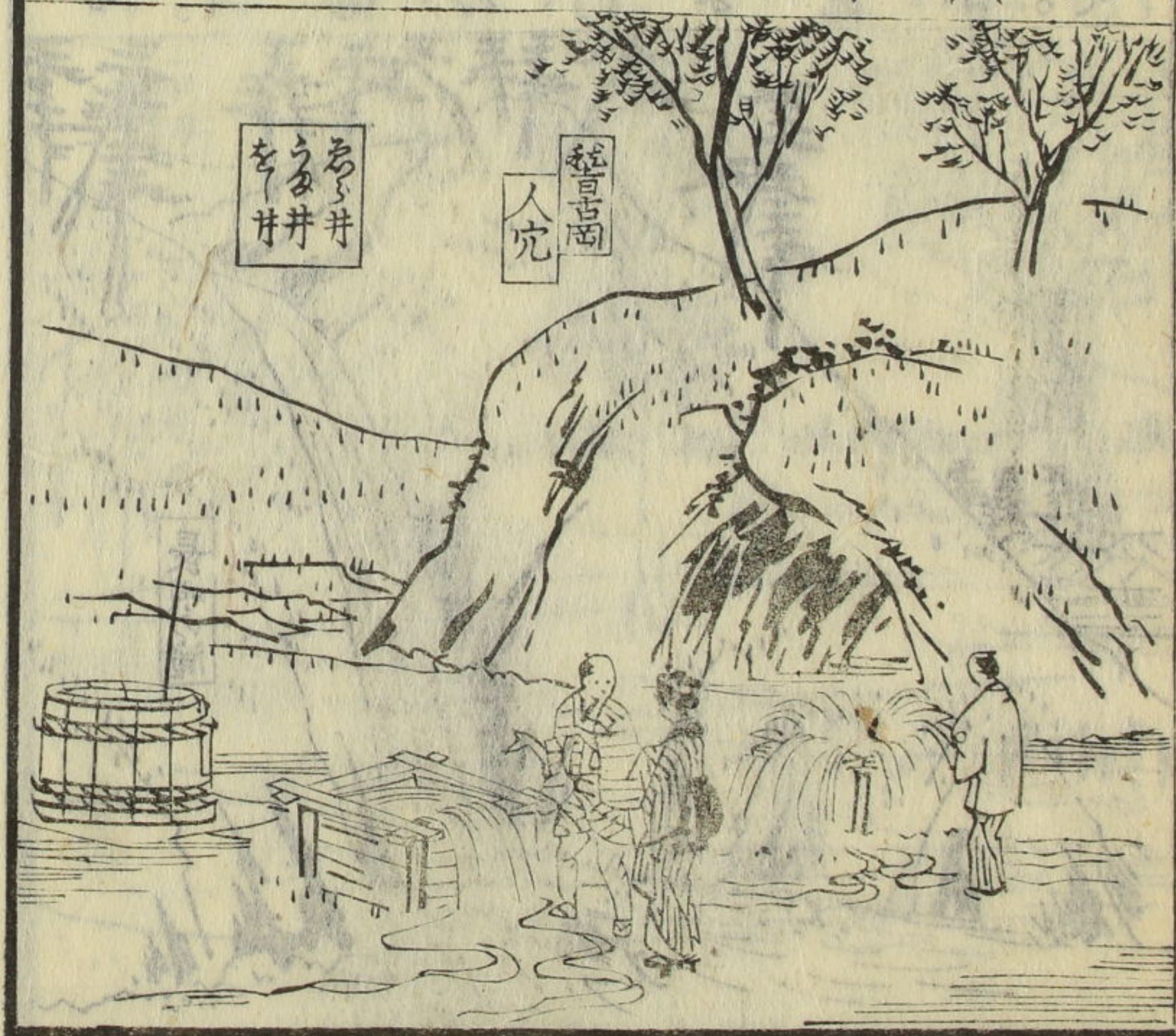
何より遠くへ平人度民も。家業の道々。寧直に
 行ふものぞ

第三驛

悪法街道不教宿○鼻ッたつし。此のり。買杭多し。
 ○當所名物○酢之○天鼓羅○此遠きくみち多し。
 此州のまじり地。何より。色間と名敷事張あり。
 ○當宿乃臨守板面大石神。此の神より。華表
 遣教。建ちあつ。の宮居あり。市神木ハ堂り本と
 以の前ハ秋佐川あり。河上ハ佐の川なり○そく

の名木あり。常磐樹に
 して、久しくぬ木なり
 此所より○柳橋を渡
 る。桜草の名所常磐
 のやうなり。七本づ
 けり。花さくなり。能
 花を。玉悟名見寺と云。
 ○清之の流は川あり。河
 邊より三つ橋あり。三つ橋は

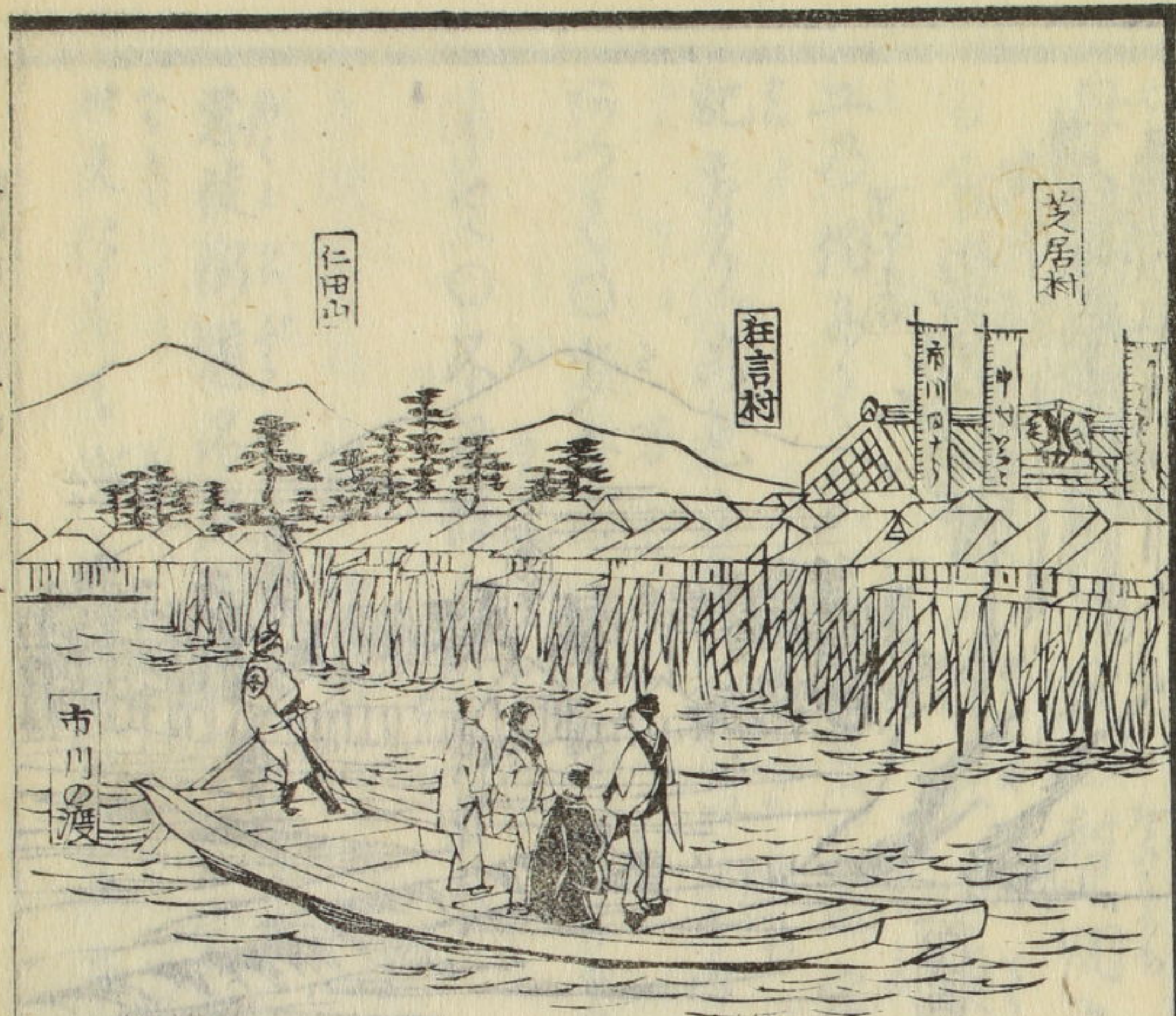




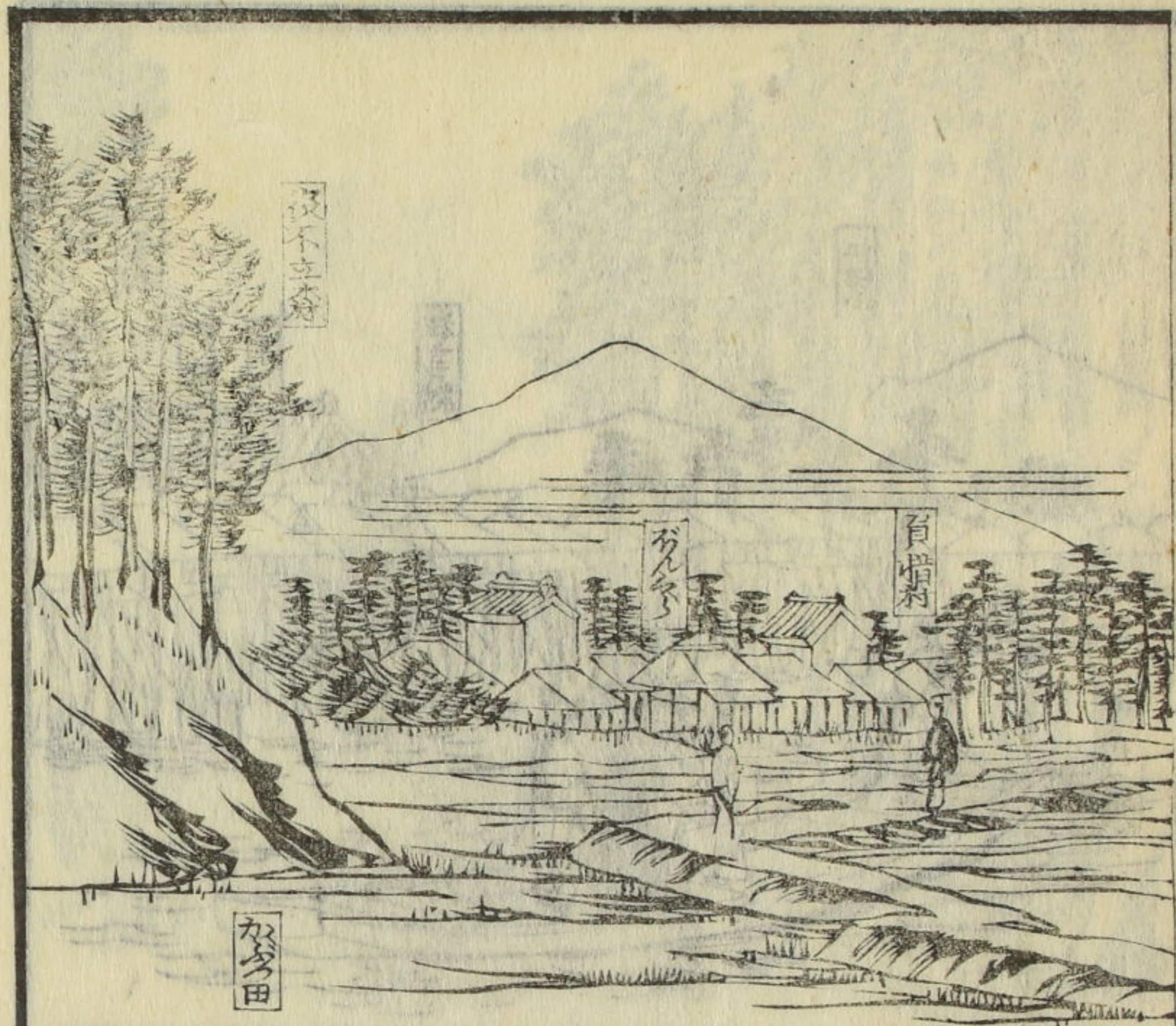
笑^{わら}ふ花^{はな}の咲^{さき}まれど
 水^{みづ}の手^てぬ^くる^るに^こも^もた^たず^ず
 手^て折^おれんと^とま^まる^るを^をか^から^ら
 ゐ^いち^ちあ^あれり^りな^なを^をわ^わり^り
 河^{かう}東^{とう}の^の演^{えん}ぢ^ぢ
 辯^{べん}常^{じょう}の^の名^な物^{ぶつ}を^をそ^そ
 前^{まえ}○河^{かう}東^{とう}の^の○墨^{すみ}ハ^ハ首^{くび}
 紅^{こう}戸^こ首^{くび}。ち^ちとの^の首^{くび}あり^り
 是^{これ}も^もあ^ありの^の能^よ死^しゆ^ゆ(^こや^や)



〇市川のさう坊より〇中
 村もつづきもさう坊より
 面をさ村より〇あぶら
 橋を渡る〇しゃきうぼ
 〇仁田山〇戦場村〇狂言
 我飯を食ひく人の生飯
 〇声色の森〇鷲石
 〇市川のさう坊より〇中

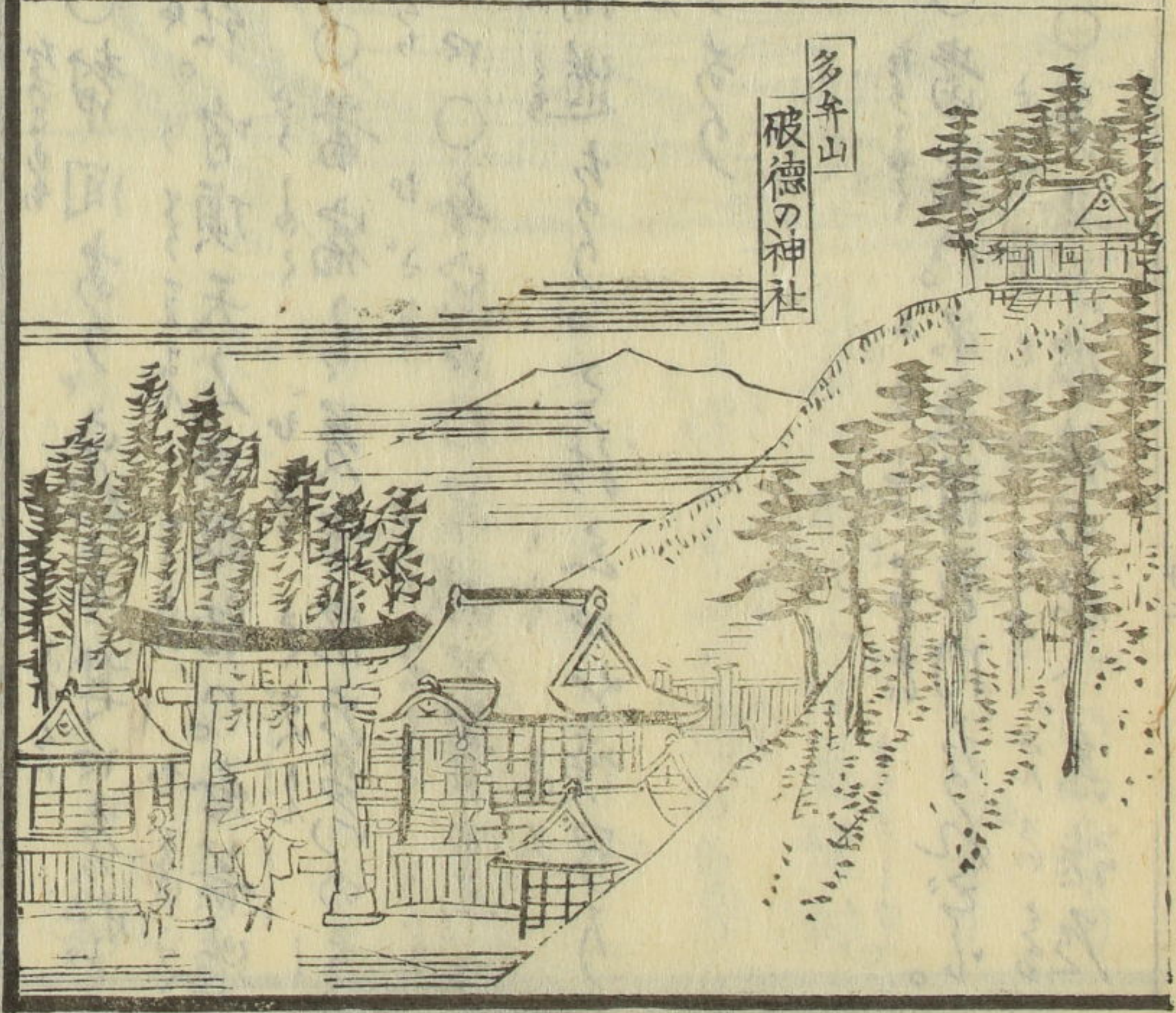


〇市川のさう坊より〇中
 村もつづきもさう坊より
 面をさ村より〇あぶら
 橋を渡る〇しゃきうぼ
 〇仁田山〇戦場村〇狂言
 我飯を食ひく人の生飯
 〇声色の森〇鷲石
 〇市川のさう坊より〇中

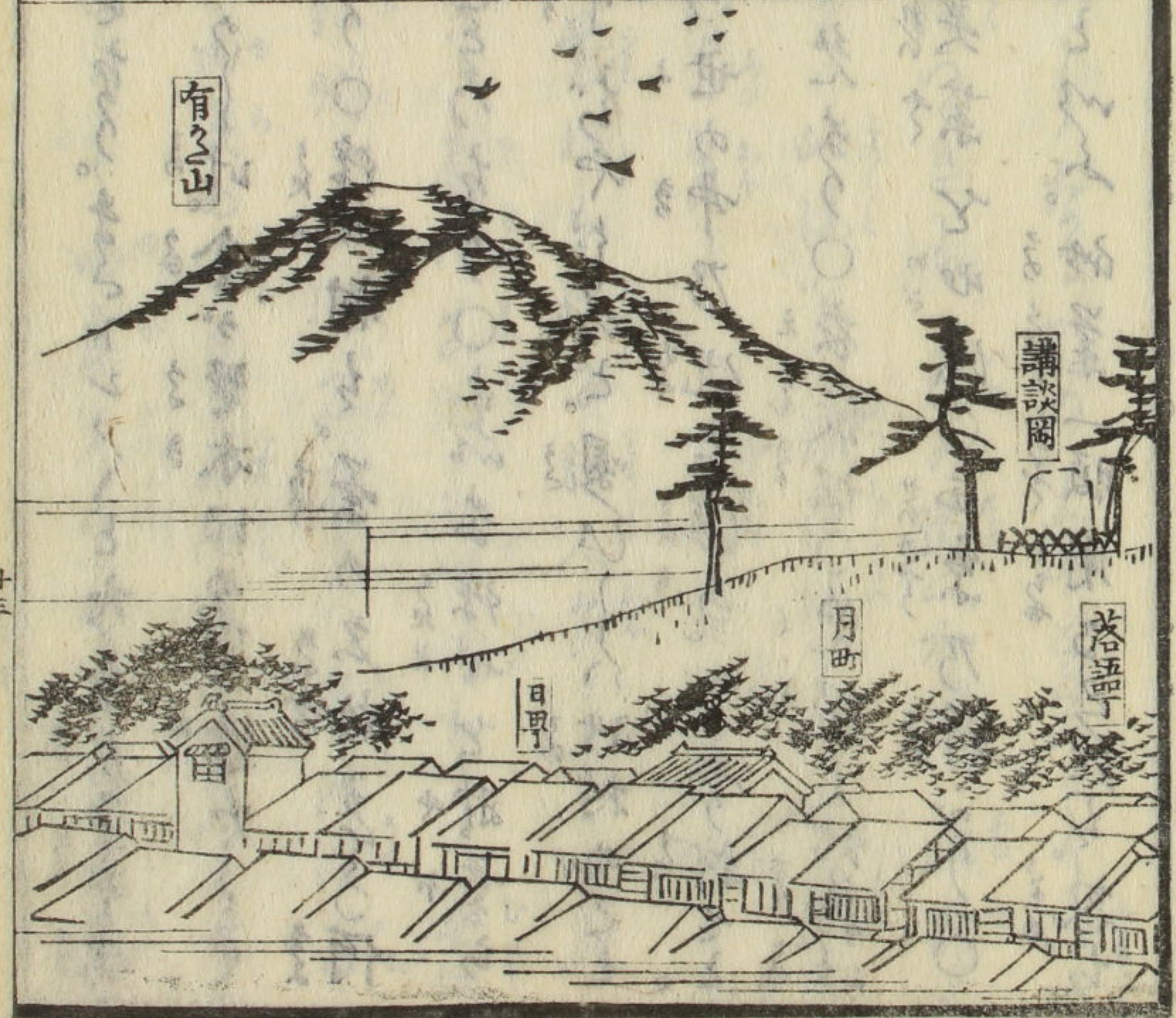


よろろふとあり ○おぶツ田
○ザカ あさく と
あつ田を不化の田あり
○後きに第立だいちの杜りう莫まけ腊らふ村むら
も増ぞう中ちゆう是ぜい口ぐちの債せうらあり
○土ど藏ざうも都よてほんふ蔵そう之
三文さんもんの智恵ちゑ梨子りし畠はたけに
あーハひとも食くれど。
○幾いく智ちも ○山やま度ど梨子りし
○海かいどあー等らうあり ○名物めいぶつ

小くは教習といふ○多
 彦山破徳の神社に社
 相傳へくといふ。既昔に
 順と築地の水門に○
 忍入谷の鬼子母林○
 憾思志まのく若光寺○
 ぶる有るの水天宮な
 ぶる新酒落ありく



まる○尾もあろく○か
 公一尾長きも何る中
 云ふおれ其社あり。林蔵
 玉く繁花にりて○落
 町○日町○月町○甲子町
 〇庚申所等の町家あり。
 〇有難い町家多し
 古く〇講談の園を古戦
 場なり。飯沼の神社あり

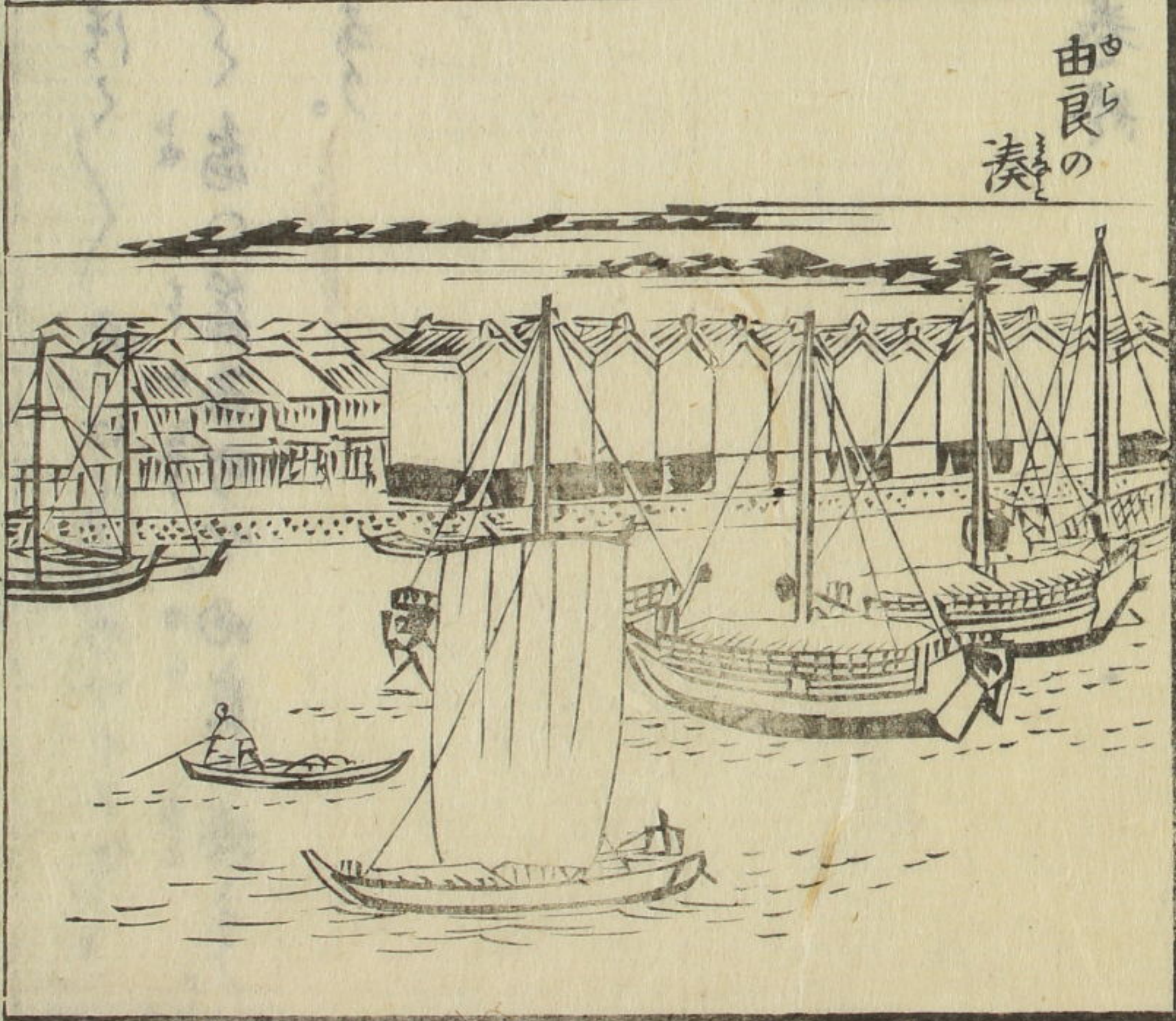


に。こゝろさくま。
 ○お客魚の。こけまて
 多し。肉を刺す。よ
 ー。其き酸や。ちり
 べ。此魚水中にあり。ち
 づ。米にあり。香き。て
 堀をのむ。まう。ん中り
 教びる。ある。河。水。法
 づ。き。声。を。い。げ。ん。お。き



由良の
 遊園図

ハ。ト。ン。テ。ン。チ。ン。と。と。い。ふ。の
 如。ー。○。ま。ま。の。良。の。倭。ま。て。
 今。ま。ま。の。倭。行。の。唱。お。あり。今
 一。と。ま。ま。の。花。と。提。げ
 紙。を。ま。ま。の。色。提。げ。ま。ま。
 ま。ま。の。方。西。方。練。院。の。後
 ま。ま。の。り。め。り。た。て。ヒ。ッ。カ
 ヒ。ッ。カ。ま。ま。の。り。め。り。た。て。ヒ。ッ。カ
 ま。ま。の。り。め。り。た。て。ヒ。ッ。カ



由良の
 奏

猿めうて。ふん。どうはくく。や。ワイくのワイトセ引。
云々。唱。これら十六つ。島。○落。落。所。由。良。の。棲。より。
一。月。り。保。む。る。夜。の。唱。ま。り。

發明道中記初編上之巻終

